

おりひめちゃんが行く!

交野戦国絵巻 九の巻

問い合わせ 社会教育課文化財係 TEL 893・8111



かいがけの道と傍示の里

「かいがけの道(峽崖道)」は、戦国時代の主要な道でした。この道を登ると、傍示の里があります。土地の境界を示す「傍示」という地名のとおり、交野と奈良の境界にあたり、この傍示の里には現在、伊丹一族が住んでいます。伊丹氏は、中世から兵庫県にある伊丹城を居城として栄えていました。

織田信長が関西に進出し、将軍の足利義昭と対立を深める中で、伊丹氏は足利方につきましたが、天正元年(1573年)の宇治槇島城の戦いで織田軍に敗れました。さらに、翌年には伊丹城を織田方の荒木村重に攻め落とされ、本拠地を失った伊丹氏の一部が逃げ延びたのが、傍示の伊丹一族といわれています。

傍示を抜けて奈良に入ると、鷹山氏の本拠地、高山城にたどり着きます。さらに進むと、筒井順慶の筒井城や、松永久秀の多聞城にも通じています。奈良の戦国武将にとって、かいがけの道は山を越え、東高野街道から京都などへ進出するための重要なルートでした。



傍示を見守るお地蔵さん

傍示には、戦国時代からこの地を見守る2つの地蔵が立っています。奥の地蔵(写真①)はほぼ笑んでいるように見えることから「スマイル地蔵」と呼ばれ、永禄4年(1561年)と刻まれています。その手前に立つ「天正地蔵」は、天正4年(1576年)、傍示に伊丹一族が移り住んできたころのものです。

この他にも、キトラの双体仏(写真②)、かいがけ地蔵(写真③)などの地蔵が道行く人々を見守っています。



おりひめちゃん
の歴史コラム



広報かたの
編集と発行

No.751

交野市役所総務部情報課 〒576-8501 大阪府交野市私部1丁目1番1号
TEL 072・892・0121 FAX 072・891・5046 テレホンサービス 072・892・1599

発行：2014年12月1日